

徳川社会と日本の近代化

笠谷和比古 編 ▶ A 5判・690頁／定価：本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1800-4 2015年4月刊行

嘉永6(1853)年、ペリーが東印度艦隊を率いて来日し、米国大統領の親書を日本側に手渡すとともに開国通商を求めた。同時代のアジア諸国は、そのほとんどが欧米列強の植民地に編入されるか、蚕食の危機にさらされていた。このような一九世紀のアジア情勢を見ると、日本が植民地化の途を歩まず独立を堅持したうえで、社会の近代化を達成しえたことの文明史的意義は少なくない。では、それが何故に可能であったのかと問うとき、欧米列強に互しうるだけの力を蓄えていた徳川日本の文明史的力量に着目せざるをえないであろう。徳川社会はどのような力powerを、いかにして形成しえたのか、多分野の研究者の書き下ろし論文25本により総合的に究明する。

●予定内容目次●

序論 徳川時代通史要綱

笠谷和比古

I 政治

新井白石と「政治」

大川 真

徳川吉宗の武芸上覧

横山輝樹

一九世紀の藩政情報—諸藩見聞録の分析

磯田道史

会津戊辰戦争の戦後処理問題をめぐり一考察
—松平容保家族の処遇を中心に

岩下哲典

II 思想

長州藩明倫館の藩校教育の展開

前田 勉

日本儒学における考証学的伝統と原典批判
—G・B・ヴィーゴ、A・ヴェクらのフィロロギー、
そして清代考証学との比較のなかで

竹村英二

本多利明の北方開発政策論
—『蝦夷拾遺』を中心として

宮田 純

幕末から明治、後期水戸学「影」の具現者
—久米幹文を中心として

上村敏文

III 文化

藩校における楽の実践
—弘前藩校稽古館を例として

武内恵美子

大武鑑「大名付」と板元と大名家
—江戸出版の仕組み

藤實久美子

宝永地震と近松の浄瑠璃
—『心中重井筒』の場合

原 道生

『道の幸』『諸国風俗問状答』からみた
松平定信の文化政策の背景

森田登代子

東北農村における結婚パターンの変容
—一八・一九世紀の歴史人口学的分析

平井晶子

一九世紀における剣術の展開とその社会的意味

魚住孝至

IV 科学

中根元圭と三角法

小林龍彦

高松松平家伝来博物図譜の成立
—一八世紀博物図譜の模索

松岡明子

蘭書による西洋天文学の受容の始まり
—『ラランデ暦書』の入手・翻訳をめぐって

和田光俊

江戸後期幕府・諸藩の近代化努力と大砲技術

郡司 健

V 国際

オランダ商館長と將軍謁見 フレデリック・クレインス
—野望、威信、挫折

フレデリック・クレインス

一七〜一九世紀における日本の朝鮮史認識形成の特色

平木 實

清朝考証学の再考のために
—中国・清代における『尚書』をめぐる文献批判とその位相、
あるいは、伝統と近代、日本との比較の視点から

伊東貴之

兼葭堂が紡ぎ、金正喜が結んだ夢
—東アジア文人社会の成立

高橋博巳

幕末最終章の外交儀礼

佐野真由子

神戸開港に臨んだ外国奉行柴田剛中
—大坂町奉行・兵庫奉行兼帯期の動向

菅 良樹

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	徳川社会と日本の近代化		本体9,800円(税別) ISBN978-4-7842-1800-4	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

徳川将軍家領知宛行制の研究

藤井讓治著

思文閣史学叢書

近世社会、特に領主社会での徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

▶A5判・412頁／本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1431-0

※近世史小論集 古文書と共に

藤井讓治著

日本近世政治史研究の泰斗である著者が、研究をはじめたころからごく近年にいたる間に書いた小論のうち、あまり目にとまらないところに収められたもの、入手の困難なものの中で著者の主要な研究の前提、あるいはその後の展開にかかわる論考を集めた。

▶A5判・490頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1621-5

※関ヶ原合戦と近世の国制

笠谷和比古著

徳川時代270年のまさに端緒となった関ヶ原合戦が内包していた諸問題の再検証と、合戦後の領地配分(地政学的状況)にみられる支配の実態、将軍制をめぐる思惑と確執、家康と秀頼の関係などを通して豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、徳川家康の政権構想と近世天皇制との関係を論じる著者最新の論集。

▶A5判・280頁／本体5,800円(税別) ISBN4-7842-1067-9

幕藩政アーカイブズの総合的研究

国文学研究資料館編

【2015年3月刊行予定】

幕政・藩政文書それぞれの管理・伝来について具体的に検討し、各藩において文書管理の実務にあたったものたちへ焦点を当てることで、幕藩文書管理の歴史に新たな知見を示す。近世から近代へとつながるアーカイブズ研究にさらなる実証的研究を積み上げる、国文学研究資料館共同研究の成果。

▶A5判・504頁／本体8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1798-4

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

儒学・博物学・蘭学・文学・芸術など、さまざまな局面において独自性にみちた文化的発展をみせ、近代化に多大な影響を与えた、日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。国際日本文化センター共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁／本体8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1580-5

東アジアの本草と博物学の世界(上・下)

山田慶兒編

日本で遭遇した東の本草学と西の博物学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響を含めて多角的に考察した、国際日本文化研究センター共同研究の成果21篇。

上巻▶A5判・364頁／本体7,500円(税別) ISBN4-7842-0883-6

下巻▶A5判・376頁／本体7,500円(税別) ISBN4-7842-0885-2

近世日蘭貿易史の研究

鈴木康子著

思文閣史学叢書

近世日蘭貿易における日本輸出商品の生産から販売までを、個別商品の輸出状況の調査、一定期間の輸出商品全体の把握、日蘭貿易状況に現れた国内外の諸情勢という三つの複合的な視点から詳細に追究し、近世における日蘭貿易の状況と推移を明かす。

▶A5判・480頁／本体9,600円(税別) ISBN4-7842-1178-0

漂流記録と漂流体験

倉地克直著

漂流体験は、奉行所や藩でつくられる公式記録にとどまらず、民間でも記録され、さまざまな形で残された。本書では1830年に漂流した神力丸の漂流記録を比較検討し、漂流記録の史料の価値についての試論を示す。さらに記録を通して漂流体験を再現し、漂流民の異国認識や異国交流の実態を探る。

▶A5判・352頁／本体7,500円(税別) ISBN4-7842-1225-6

熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1458-7

幕藩制国家の成立と対外関係

加藤榮一著

思文閣史学叢書

幕藩権力かどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

▶A5判・468頁／本体8,800円(税別) ISBN4-7842-0954-9

幕末期の老中と情報

水野忠精による風聞探索活動を中心に

佐藤隆一著

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートと枠組を明らかにする。

▶A5判・520頁／本体9,500円(税別) ISBN978-4-7842-1702-1

※近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

▶A5判・480頁／本体9,800円(税別) ISBN4-7842-0958-1

幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

大村益次郎とその継承者

竹本知行著

日本という近代国家形成と国民形成の推進に大きな役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎とその遺志をついだ山田顕義らの動向にたどり、その政治史上の特性を探る。

▶A5判・340頁／本体6,300円(税別) ISBN978-4-7842-1770-0

日本近代化の諸相

梅溪昇著

第一部に概論として明治維新史研究の論稿2篇、第二部に初期条約改正・陸海軍・日清戦争などの個別研究9篇、第三部に但馬・尼崎・紀州地域における近代化の特質と様相をさぐる諸論文8篇、さらに史料1篇を収める。いずれも史料と先行研究を踏まえた緻密な論文で、「梅溪史学」の結晶をみることができる。図表多数収録。

▶A5判・650頁／本体15,000円(税別) ISBN4-7842-0364-8

識字と学びの社会史 日本におけるリテラシーの諸相

大戸安弘・八鍬友広編

近代学校制度が導入される以前までの、日本の識字と学びの歴史的展開とその諸相を、様々な史料から多面的に掘り起こし、実証的な検討を試みる。地域性と個別性を意識した事例の検証が必ずしも十分とはいえない現状に一石を投じる、教育史研究者七名による気鋭の論文集。

▶A5判・372頁／本体7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1772-4

明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。

▶A5判・390頁／本体5,400円(税別) ISBN4-7842-1262-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。